

2015年度 湘南藤沢学会「研究助成金」成果報告書
Asian Conference on Pattern Languages of Programs(AsianPLoP) における
『Project Design Patterns』の研究発表

総合政策学部 4年 窪田哲朗

1.活動日程・会場

2016年2月24日～27日 国立台北科技大学(台湾・台北市)

2.活動の目的

本研究は、企業の創業者が持つプロジェクトの企画と運営の秘訣を、創業者へのインタビューによって抽出して言語化し、パターン・ランゲージの手法を用いて『Project Design Patterns』としてまとめ、企業内で共有することを目的としている。また、本研究は建築設計を手がける UDS 株式会社との共同研究である。今回の活動では、台湾で開催される Asian Conference on Pattern Languages of Programs(AsianPLoP)にてこれまでの研究成果を英語論文の形で発表し、専門家やその他の参加者から講評や具体的なアドバイスを得て、研究成果である『Project Design Patterns』の向上を図った。

3.活動の成果

今回の活動は、パターン・ランゲージの作成・研究に取り組む世界の実践家・研究者から論文に対する提案・助言を得、『Project Design Patterns』の内容をより良くすることを主眼としていた。主に2つの効果が得られた。

1つには、パターン・ランゲージへの造詣が深い参加者から、パターン・ランゲージの源流である建築分野での話題に返った深い議論や提案を得ることができたことである。

2つ目は、ライターズ・ワークショップの参加者に建築分野の方がいなかったことで、建築設計企業の創業者から抽出したパターンがそれ以外の分野でも適用可能であるかという点について議論が得られたことである。いずれも本研究への貴重なフィードバックであり、実りある成果が得られたと考えている。

また、井庭研究室のパターンを用いた対話のワークショップも学会内で実施された。井庭研究室で提案してきている日々の人間行動を支援するパターン・ランゲージを対話の中で用いるというパターンの活用の体験を提供した。学会参加者の中で多数を占めるコンピューター・サイエンスを専門とする人々からも大きな反響があり、研究室で作成するパターンの質とその活用方法の意義について自信を深めることができた。



[ライターのワークショップの様子]



[パターンによる対話のワークショップ]

4.今後の課題・活動

まずは今回の学会参加で得られた提案や助言を論文に反映させ、論文の最終稿の執筆に取り組む。今回の論文では、全 32 パターンある『Project Design Patterns』の中から象徴的な 4 つのパターンを掲載したが、パターンの全体性をよりつかみやすくするために、掲載するパターンを増やすこととする。また、論文内でも紹介した UDS 株式会社の事例において、どのようにパターンが活かされているかについて言及することなどが、主な改稿点となる。

この活動の成果物である『Project Design Patterns』を含めた書籍『プロジェクト・デザイン・パターン 企画・プロデュース・新規事業に携わる人のための企画のコツ 32』が 4 月 1 日に出版されることとなっており、作成したパターンが広く活用されることを目指す。

5.謝辞

ご指導いただいた井庭崇准教授をはじめ、本研究の過程で適切なフィードバックを下さり、共に成果のつくり込みに取り組んで下さった UDS 株式会社の梶原文生様、中川敬文様、原澤香織様、そして学会出席にあたり資金面での支援をいただいた湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。